

フォレストニュース

植林が地球を救う

令和4年(2022)11月10日

No. 179

発行 高津啓洋

養蜂：豊かな森の花・虫・人

大切な森 私たち人間を含む、生きとし生けるものの生命を守り、育んでくれる緑の森林。二酸化炭素を吸収して酸素を作り出す、大気や湿度を調節する、など地球環境を守ってくれる森林です。

身近なところでも、森は豪雨、暴風、土砂災害などから私たちを守ってくれるばかりでなく、海を育み、果実、薬草、木材、花、心のやすらぎ、健康、ほか様々な恵みを与えてくれます。

緑の宝殿 人間が自然から収穫をもくろめば、自然は凄まじい力で反撃してきます。森はその典型。しかし、緑の森、豊かな森を守ろうとする者には、惜しみなくその宝庫の扉を開いてくれると言います。

花とミツバチ レダの蜂蜜を紹介しましょう。動植物

相の豊かなレダの森では、一年中、草や木に様々な花が咲いています。一見花が何もないように見える季節や場所でも、よく見るとミツバチが飛んでいるのを目にすでしょう。そのミツバチがとまるところを見ると、小さな花があります。

さらによく見ると、小さくて地味な感じの花がたくさん見つかるでしょう。

地味な花と言っても、スマホで拡大して見ると、とても可愛い花です。こんな花が無数に咲

き、たくさんの働きバチたちが蜜を集めていることが分かります。

1匹の働きバチがその生涯に集める蜜の量は、茶さじ半分から1杯分ほど。母なる女王蜂を中心とする大きな家族で巣を営み、森の花情報を共有して蜜を集めます。

養蜂 11月8日、養蜂箱の一つか

ら蜂蜜を採取しました。蜂蜜を絞って、ていねいに濾過し、瓶に詰めると、約10リットルになりました。純度は100パーセント。芳醇な味わいと香りを持つのが、レダの蜂蜜の特徴です。

これまでレダの養蜂は自家消費分に加え、近隣の住民に分けてあげる程度の規模でした。しかしその評判が口コミで広がり、要望に

応えきれなくなってきたため、増産することを目指しています。**愛しの森** レダを訪れた人々がレダ産の蜂蜜を味わうと、その豊かな味わいに驚き、頬をほころばせます。私たちは小さな蜂や花を通して、広大なチャコの自然森がいつも愛おしく思えてくるのです。

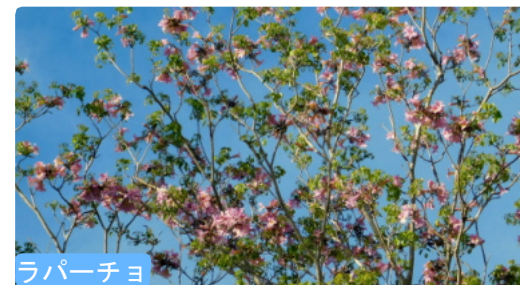
待ちに待った開花



今年、レダでは花木の開花時期に例年とは異なる傾向が見られました。日系人たちに「パラグアイ桜」とも呼ばれるピンクのラパーチョは、例年8月下旬にレダでは一斉開花します。ところが今年は、



採取した蜂蜜をペットボトルに詰めました。11月8日



7月下旬頃から10月初旬にかけて、個々の木が思い思いの時に咲いた感があります。また並木の一部は未開花のままに青々とした「葉桜」になりました。原因として、開花期の前後に降水量が極端に少なかったこと、10月末まで涼しい日が多かったことなどが考えられます。